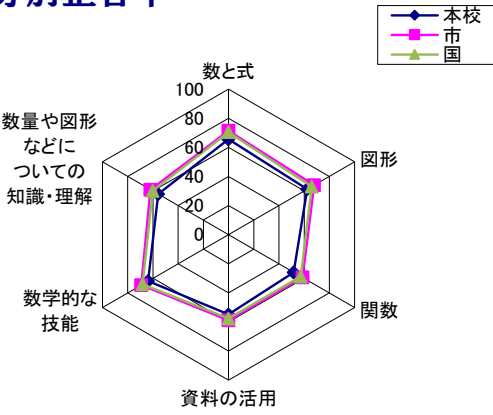


宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

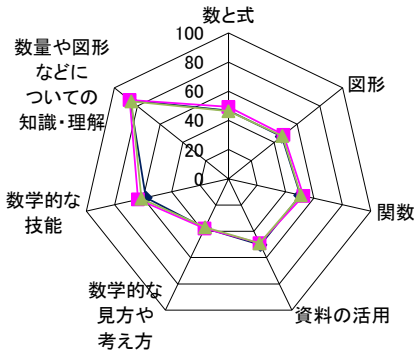
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	65.6	71.4	70.4
	図形	62.4	67.9	66.0
	関数	51.7	58.6	57.4
	資料の活用	54.8	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	63.8	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	55.8	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	46.7	49.4	46.3
	図形	46.6	48.3	47.1
	関数	50.5	52.7	50.8
	資料の活用	50.3	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	37.5	37.8	36.8
	数学的な技能	58.2	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	86.2	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○文字式の計算や、2元1次方程式の解の意味について考える問題の正答率が高かった。 ●文章から文字を用いて式で表すことや、方程式の計算の正答率が低かった。	計算分野に関しては、分数や小数の計算方法や、どこから計算すべきかという計算の優先順位について適宜指導していく。また反復して計算練習し、基本の定着を図る。
図形	○平行移動の作図や、図形を回転させたときにできる立体を考える問題の正答率が高かった。 ●立体な図形の展開図から表面積を求めることや、扇形の弧の長さを求める問題の正答率が低かった。	ある図形の向きが変化したときに合同である図形を見つけることや、平面な図から立体図形をイメージすることなど、視覚的に図形を捉えることについては長けている。その一方で、面積や長さなど計算を用いる問題が苦手な傾向があるため、公式の確認や問題演習を多く取り入れていく。
関数	○ある事象を関数と捉え、式で表したり、グラフにする問題の正答率が高かった。 ●反比例に関する問題が、1次関数や比例と比べて正答率が低かった。	1次関数や比例など関数によってどのような特徴があるのか改めて確認し、その上で式・表・グラフについて理解を深める必要がある。
資料の活用	○さいころを投げて確率を考えると、同様に確からしいという意味についてよく理解できており、8割以上の正答率であった。 ●ある資料を読み取る上で、資料の範囲を考えたり、総体度数を求めたりする問題の正答率が低かった。	確率の分野に関しては、県や全国と比べて平均的な正答率であったのに対し、資料の整理の正答率が低かった。資料を分析する上で必要な代表値の求め方の指導だけに留まらず、実際の様々なデータを分析する活動を多く取り入れる必要がある。